

臨床研究に関する情報公開について

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	進行膵癌と診断され一次療法を施行した患者を対象とした治療開始後8週時点でのSPan-1の低下率と予後との関連の検討（単機関後ろ向き観察研究）			
実施予定期間	研究実施許可日　～　（西暦）2028年12月31日			
実施診療科	内科			
研究の審査等	臨床研究審査委員会審査日		2026年7月28日	
	研究実施承認日		2026年7月28日	
対象となる方	2012年1月から2025年12月の間に、切除不能膵癌と診断され抗がん剤治療を行った患者さんを対象とします。			
対象期間	（西暦）2012年1月1日～（西暦）2025年12月31日			
研究責任者	所　属	内科	氏　名	岩井　佑太
研究の意義	他の臓器などへ転移し手術の適応外と判断された膵癌（転移性膵癌）の患者さんに対しては、延命および症状緩和を目的とした抗がん剤治療が標準治療として行われます。抗がん剤治療中、腫瘍マーカーやCT検査などの画像検査などを用いて治療を効果評価します。腫瘍マーカーの一つであるCA19-9は、低下率が化学療法の有効性を示す早期マーカー、次の抗がん剤治療へ移行すべきかどうかを評価する指標となり得ると示唆されています。一方、SPan-1は、病気を見逃さずに見つけられる割合がCA19-9と同程度であり、抗がん剤治療中での腫瘍の進行評価における有用性も示唆されていますが、SPan-1の低下率と生存期間との関連を調べた報告は明らかではありません。今回、SPan-1の低下率が生存期間や治療効果と関連する可能性があると仮説を立て検討することと致しました。			
研究の目的	腫瘍マーカー値（SPan-1など）の抗がん剤治療前と比較した低下の程度と治療継続期間との関連性を明らかとすることを目的とします。			

研究の方法	切除不能膵癌と診断され抗がん剤治療を行った方について、診療録から情報を収集して、集められた情報をデータベースへ登録した後、解析されます。
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を匿名化した上で使用します。(年齢、性別、等の基本情報、膵癌の進行度(ステージ等)、治療に使用した薬剤名および治療期間、有害事象の種類、血液検査結果、治療の経過などの臨床情報)
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定ですが、その際に個人を特定できる情報として公表されることはありません。
個人情報の保護	対象者となる方の情報使用に関しては、個人を特定できる情報を削除して番号(匿名化)を付けた上で研究責任者の責任のもと厳重に管理・保管します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
お問い合わせ	一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 電話 045-221-8181(代表) 内線2174 内科 岩井 佑太